

松原市が 大阪・関西万博で

まったくおむすび、みそまるの試食イベント

【大阪】松原市は4月20、26日、J A大阪中河内松原市地区難波菰部会(稲田元正部会長)と大阪エコ農産物まつたら愛っ娘推進協議会(上田悦男代表)などの協力を受け、2025大阪・関西万博で大阪府松原市産農産物のPRを目的とした「まったくおむすび&みそまるショウ」を開催した。

市は、なにわの伝統野菜(※)の難波葱を具材にしたおむすびと、難波葱に加えて同市ブランド農産物の「まったく愛っ娘」の冬キャベツやコマツナを使用した即席みそ汁の素「みそまる」のみそ汁の試食を実施。7日間で約1100食を提供した。

市は、なにわの伝統野菜(※)の難波葱を具材にしたおむすびと、難波葱に加えて同市ブランド農産物の「まったく愛っ娘」の冬キャベツやコマツナを使用した即席みそ汁の素「みそまる」のみそ汁の試食を実施。7日間で約1100食を提供した。



25日には、稲田部会長と上田代表が、難波葱の栽培風景や収穫作業などの映像が流れるステージに登壇し、難波葱の歴史と特徴について紹介。「日本最古の在来ネギである難波葱は強いぬめりが特徴。他地域に伝播して、京都の九条ネギの原種ともいわれる。旬の難波葱は特に甘く、糖度が10を超える。香り立つネギの風味と共にぜひ味わっていただきたい」と魅力を語った。

上田代表は主に「まったく愛っ娘」について紹介。「まったくは方言で松原の意味。農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下に抑えながら、愛っ娘の字の通り愛する娘のように大切に育てています」とPRした。

生産者の声を直接聞き、試食した参加者からは、ネギ本来の香りと野菜の甘さに好評の声が寄せられた。

(林佑一郎)

※約100年以上前から栽培されてきた歴史を有する大阪独自の野菜を認証する制度。難波葱は2016年に18番目の伝統野菜として認証。

「お客さんの声がやりがい」

草津市でイチゴ狩り体験農園

自動車部品メーカーが農業参入

【滋賀】「お客さんの声を直接聞けることがやりがい」と語るのは、自動車部品メーカー・メタルアートの子会社メタルヴィレッジの白石学社長。同社は今年3月、草津市内で関西最大級のイチゴ狩り体験農園「潮と苺」を開園。初のB to C事業に踏み出した。

広さ16連棟のハウスで県オリジナル品種「みおしずく」を中心に9品種のイチゴを栽培するほか、バリアフリーで車椅子やベビーカーの利用客にも好評だ。社長の思いに共感し、メタルアートから転籍した栽培担当の木下●●さんも「B to BからB to Cは世界が違って見える」と新たなやりがいを感じている。

課題は供給量の確保。



県オリジナル品種「みおしずく」と大石社長

夜間にハウス内の気温を14度に保つ「短日夜冷」を実施し、10月中旬からの出荷をめざす。同市農業委員会の相井●●事務局長は「地元企業が農業を通じて行う地域貢献のほか、農業が抱える課題を製造業で培った需要に応じた生産やコスト削減に期待したい」と話した。

湖と苺〒525・0066 滋賀県草津市矢橋町2001、8050・3112・9460 (福井かれん)

オーベルジュで未来の担い手支援

なら食と農の魅力創造国際大学



学生が実習で活用している「オーベルジュ・ドゥ・サンヴィ」

大学校」では、フードクリエティブ学科の学生が多くの人に県産食材を使用した料理を提供する機会を増やし、食の担い手として活躍するために支援している。

宿泊施設を備えたレス・トラン「オーベルジュ」を通して、一般の人に地元食材のおいしさを知ってもらうことで、学生の技術向上が目的。今までは、学生が料理を振る舞う機会が少なかったため、交流の場を作ったという。

兵庫楽農生活センター 講座「半農半Xコース」スタート

【兵庫】兵庫楽農生活センター(神戸市西区)は、農業体験や農村交流を通して食や農に親しむ「楽農生活」を体験できる県の拠点施設で、「半農半Xコース」を体験できる。

定例総会で積極的に発言しているほか、圃場間の移動時間や日常生活の際には農地パトロールを欠かさないなど、意欲的に農業委員会活動に参画している。

「周囲の迷惑になる遊休農地を減らしたい」と話す田淵さん

地域の新規就農者の少なさに危機感を覚えている田淵さん。「兼業農家など、農業に携わる多様な人材を増やして、できるだけ農地を守っていききたい」と語った。

現在、委員4期目を迎える田淵さん。毎月、



日、日曜日を中心に講義や実習を1年間で学ぶ。5月10日には「野菜の特性と栽培管理」をテーマとした講義や機械操作の実習が行われた。写真。芦屋市から参加した30代の男性は「家庭菜園をしているが、自分で野菜や果物を栽培したいと思い、このコースに参加した。修了後は農地を借りたい」と抱負を語った。(山口昭彦)

県担当者は「未来の食の担い手となる学生には県内を中心に開業して育てほしい」と話し、高度な人材を育成するため、桜井市にある「オーベルジュ・ドゥ・サンヴィ」を活用している。施設は同大学校と連携しており、プロのシェフの指導のもと、学生はレストランやホテルでのメニュー構成を想定した調理技術を学んでいる。詳細は、ホームページ(<https://www.hirakawa-corp.com/service>)をご覧ください。(木村将史)

青年 委員 奮闘中

▷33

美浜町 田淵秀樹さん

【和歌山】「自分の地域で農業委員を務めていた前任者が退任することになり、専業農家だった自分が2012年に農業委員に就任した。当初は周囲の委員が町の大物ばかりで大変でした」と笑うのは、美浜町の田淵秀樹さん(47)。



や青ネギなど44・6坪を栽培している。

多様な人材増やし農地を守る 脱サラし就農、委員4期目に

近

畿

近畿総局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入
丁子風呂町104-2 府庁西別館内
075・441・3660

滋賀県支局
077・523・2439

大阪府支局
06・6941・2701

兵庫県支局
078・391・1221

奈良県支局
074・222・1101

和歌山県支局
073・432・6114